

せせらぎ通信

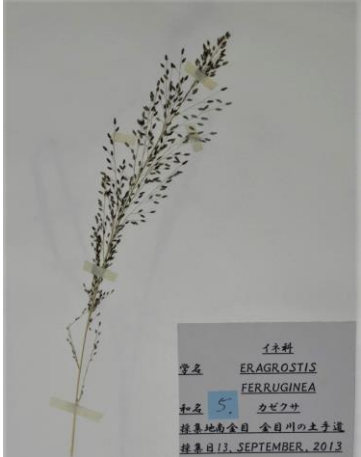
昔も今も変わらぬ金目川の水辺と土手の風景



万葉集「7世紀後半から8世紀後半」自然とのかかわり深く、さまざまな人が詠んだ秀歌。

日置長枝娘子が大伴家持に贈った。「秋の野の尾花が末を押しなべて来しくもしるく逢へる君かも」





私は 10 年前から
押し花を金目川の水辺・土手にて
イネ科植物などで手づくりしています。
今も押し花は、根をしっかりと張り、無数の花を咲かせた
まま、風によって種は新しい地で芽吹いていくかのように
存在しています。

柳川三郎



下北半島

立体地理模型の展示について

坂井 昇

パソコン教室の岩本先生から平塚市市民活動センターに立体地理模型を展示するので、一緒に展示しないで
すかとお誘いがあった。

岩本さんとは、立体地理模型との絡みから10年前か
らの付き合いがあり、パソコン教室、カラクリ屏風の作
成、**金目川流域ネットワーク**と付き合いが広がっていた。
10年前の2013年、**富士山が世界文化遺産に選定さ**
れたことにより平塚市生きが**い事業団のプラザ**まつり
で旭北地区として、子供たちに**富士山の40万分の1の**
立体模型を作成する遊びを演出した。この時、岩本さ
んから同じ**立体地理模型**を造っていることので**意気投合**
したのであった。

なぜ、立体地理模型を造ったのかは、いまから70年前
にさかのぼることになる。小学4年生の時の図工の時
間、等高線の地図をカーボンで線を複写し、立体地理模
型を造るというであった。その時は完成することではでき
なかつた。

60才で退職したとき、時間に余裕ができたので、子供の時完成できなかった立体地理模型に挑戦することにした。それには、国土院の地形図が必要なので、横浜の有隣堂まで地形図を買いに行った。富士山から始まり、日本国内の半島、火山などを切り抜き、70地点の立体地理模型を作成した。

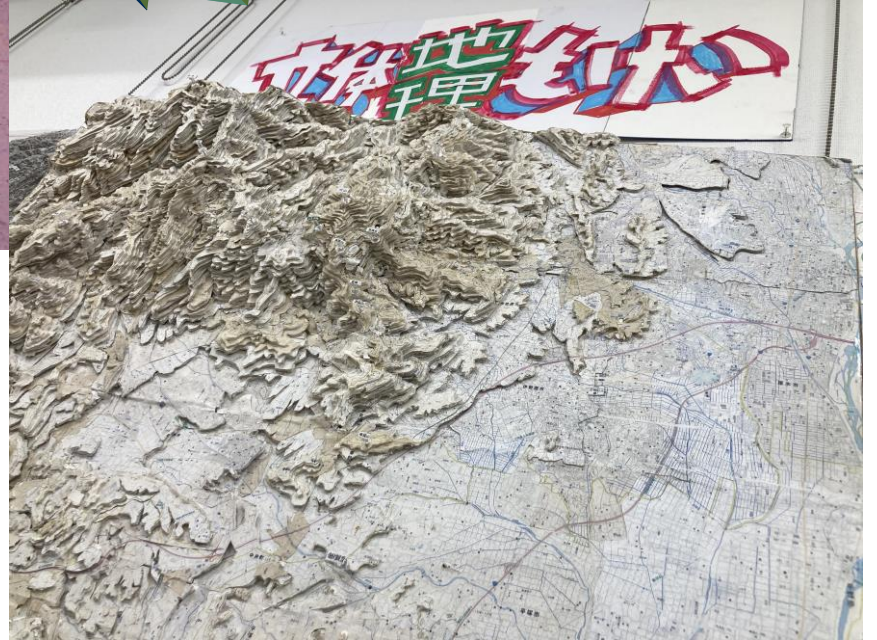
今まで、よまさんに立体模型をお見せすることはほとんどなかったが、4年前、山下小の課外学習で箱根山の立体地理模型を見せ、大涌谷の噴火の危険地帯を提示することができ、日本の特徴ある地域を4年生に見てもらった。

今回、岩本さんの平塚から丹沢山塊、藤沢までの大型立体地理模型を中心に、日本の半島火山などの特徴のある16点を展示した。

1月12日にタウンニュース社の小澤香苗さんが取材に来て1月19日の湘南タウンニュースに記事を書かせてくれた。

なお、地理模型を教えてくださいました松田先生は昨年12月23日に101歳で亡くなりました。

← 知床半島



「左上 丹沢山」 「右下 平塚市」

先生の娘さんから年賀状のご返事でわかった。出来の悪かった児童の私に、漢字書き取りをお残りで教えてくれたことや石垣島での戦争のことも話してくれたことを思い出した、「冥福をお祈りしました。」

ひらつか市民活動センターで展示

自己紹介と自然に対する考えについて

古澤政明

定年まで高校の教師をしていました。また、定年後も暫く非常勤講師をしてきました。

教科は理科で、主に化学を教えていました。原子・分子・化学反応などです。

理系の大学を目指す者を対象に、普段の授業とは別に日曜講習を行ったりして限られた時間の中で化学実験などもしてきました。

今でも走馬灯のように浮かびます。そんなわけで自然科学は長年にわたり携わってきたので愛着を感じます。

ふとした切っ掛けで府川きよし氏を知ることになりました。

何回かお会いして話をしている中で、高麗山や金目川に関して多角的な方面から説明をしてくださり、聞いていくうちに博学多識な人と分かって一遍に引き込まれていきました。



時間があつたら来て

みないかと誘われ、

2022年11月25日(金)

山下小学校の出前授業に参加させていただきました。

私の住んでいる所は近くに高麗山や金目川があります。

1分くらいで、金目川「海から1.2 kmの標識」に出ます。

動植物には事欠きません。



定期的に高麗山を散策したり、金目川河畔を歩き自然と対峙してきました。

持論ですが、自然とは生態系が保たれる領域であると考えています。また、自然環境は幾多の年月を経て変遷をたどり、生態系の破壊にもさらされてきていますが、人為的に生態系が守られている例としては山で増えすぎた鹿を捕獲者が捕まえる、木の伐採、草原の野焼きなどが昔から知られています。

また、化学製品の殺虫剤や農薬を散布して害虫を瞬時に殺す薬剤があります。また、雨水の中に混ざって水田に入り、水路を通って川に流れていく。そして魚や鳥が死ぬ。レイチエル・カーソン「沈黙の春」に自然・環境に関して非常に恐ろしいことが書かれています。

フックシオンであると言者は言っていますが、多分フックシオンなのだろう。「自然と環境」を対比させながら科学的知識を少しでも共有し、便利さだけを求めていくだけでは何の解決策にもなりません。

今や人為的に自然や生態系を守っていくかなければならないと私は思います。

金目川の自然に向かった

入会の心意気

わたしは常田陽市と申します。金目川水系流域ネットワークには22年の秋に入会しました。藤沢市に住んでいるので、もともと引地川と境川には関心がありました。

そのこともあり、引地川等と比較しながら金目川を理解していきたいと思えます。

当面、水源との関係で2つの水系の堆積物・堆積岩の粒径分布や水質を比べることから始めたいです。

金目川に魚の種類が多くて、アユがいっぱいいる理由も、その方向から徐々に理解していこうと思います。

また、伊勢原断層を挟んで両者は反対側に位置しているので構造地質的な比較もしてみたいと思います。金目川が流路を大きく変えて、平塚市内を流れるようになったのは渋沢断層の活動によると思われる。



渋沢断層の巡検・見学会でもあればぜひ参加したいものです。そして現在相模トラフにあるプレート境界は、かつて伊勢原断層やその延長部の葉山―嶺岡帯のところにあったという説を聞いたことがあります。

そのあたりもどうなのか、少しずつ学んでいきたいものです。

先々の夢としては両方の川に水車小屋等を極力手づくりで作る運動を起したいです。

水車小屋を中心にさまざまな手づくりの装置を付属させて、学習やレジャーを含めて多目的に利用する」という夢です。なんとか実現できないかと思っています。

そこでは大学初年級ぐらいまでの物理を、数式を使わず体感的に、だれもがわかるしかけを作りたいです。

その夢とは、かけ離れています。① 大山「コマ」と戸瀬「コマ」の比較をしたら、

② 石田で小麦や稗など固いとつねれるものをひくとつねのくらいたいへんなのかに興味があります。

このあたりの体験的理解からスタートしようと思っています。

みなさま、どうぞよろしくお願いたします。